

# お客様の状況別 フォロー & 追加提案は こう進める

1・2 伊藤亮太 スキラージャパン株式会社  
ファイナンシャル・プランナー  
3～5 藤原久敏 1級FP技能士・CFP®

最近多いお客様の運用状況を挙げて、それぞれ  
どのような対応を行えばよいのかを解説する。

## 1 非課税期間の長々とともに 積立投資のメリットを再確認



インフレへの備えとしてNISAで積立投資をしてきたが  
利益が出ず不安になっているお客様

**総** 務省統計局によれば、2015年12月における全国の消費者物価指数（生鮮食品を除く総合、2010年=100）は、103.3と前年同月比+0.1%にとどまった。デフレとはなっていないものの、インフレになつていないかといえは疑問の付く数字である（図表）。原油価格の下落などの外的要因もあつて、物価上昇が継続するかどうかには不透明感が残る。

しかしながら、ここに来てインフレに歯止めがかかつており、株価も大幅に下落している。2016年2月13日現在、年初からの下落率は、日経平均株価で21%。株価下落の震源地といわれている中国・上海総合指数の22%に匹敵する水準である。購入時期によっては、含み損を抱えている投資家も多いことであろう。

お客様への対応を考えていきなさい。まず、アフターフォロー時に改めて伝えてほしいことは、NISAの特徴と積立投資のポイントである。ご存知のとおり、NISAは最長5年間、利益が非課税となる。この5年間という時間を味方にするのが可能だ。

2012年秋以降、アベノミクスにより円安・株高が続いた。日本銀行の異次元の金融緩和が物価上昇に寄与すると考えた投資家は、インフレに備えるため、株式投信やリリートファンドなどを購入していたのではないだろうか。

このような状況だからこそ、アフターフォローはしっかりと行いたいところだ。ここでは、インフレへの備えが必要だと考えてNISAにより積立投資をしてきたものの、利益が出ず不安になつてい

昨年、相場を振り返ってみれば分かるように、昨今の日本の株式市場はボラティリティが高く、大きな下落も上昇も起こり得る状態である。今は下落していても、何かをきっかけとして株価が上昇する可能性もある。そのため、含み損を抱えているお客様には、継続してNISAによる積立投資を行っていただければ、どこかでプラスとな

る可能性があることを説明した  
い。  
昨年1年間だけでも大きな変動  
があつたのだ。5年間あればプラス  
となることもマイナスとなるこ  
とも大いにあり得る。「ある程度  
プラスとなつたときに、売却する  
ことを検討してはいいかがでしょ  
うか」とアドバイスするのもよい。  
もつと、積立投資に関する特  
徴もこの機会にしっかりと説明し

ておきたい。特に、平均単価をな  
らすメリットをいま一度理解して  
もらおう。

これもご存知のとおり、投資信  
託の積立投資はドル・コスト平均  
法により、基準価額が高いときに  
は購入口数は少なくなるが、基準  
価額が下がれば購入口数は多くな  
る。つまり、安いときに多く買え  
るメリットがあるわけだ。これに  
より平均単価を下げることが期待  
できる。

不安になるお客様には、「基準  
価額が下がっていますが、これは  
海外要因による影響が大きいもの  
といわれています。市場が安定す  
れば、元に戻っていくことも期待  
できます。安い今だからこそたく  
さん買えますし、まだNISAを  
活用できる時間がありますから、  
今一度様子を見られてはいかがが  
すか」と説明し、その反応によつ  
ては、むしろ追加購入をプッシュ  
してみよう。

分散投資で相場下落と  
インフレの双方に備える

このほか、現在NISAで購入

しているファンドとは別の商品  
を勧め、分散投資を徹底させるこ  
も提案したい。

例えば、世界的に経済情勢が不安  
定なときは、金や債券価格が上  
昇しやすいので、それらを含む投  
信を勧めてみてよい。分散投資  
することで、相場下落にも耐えら  
れる資産構成づくりにつながる。  
そして、ポートフォリオのリバラ  
ンスにより、経済の不安定時には  
高くなった金などの投信を一定割  
合売却し、安く買った株式投信を  
購入。景気不安定時にも利益を出  
す仕組みを作るのだ。

長期的に見れば、インフレが進  
むのであれば金などの代替投資の  
価格も上昇する可能性があるた  
め、株式投信も金などへ投資する  
投信も、どちらも基準価額は上昇  
するかもしれない。つまり、そも  
そもの目的であるインフレ対策と  
いう観点からも、理に適ったポー  
トフォリオを構築できることにな  
るのである。

短期でも中長期でも、最終的に  
はお客様にとって安心できる資産  
運用の支援を行う必要がある。ま

さには不安定な今だからこそ、分散  
投資による運用提案を徹底させ、  
追加購入や新規購入を促してみよ  
う。不安払拭につながるはずだ。  
.....  
こんなトークを展開しよう  
お客様「最近の株価下落は痛い  
ね。私がNISAで積立で買つて  
いる日経平均連動型のファンドも  
大きく下がって困っているよ」  
担当者「今回の下落は、中国の景  
気不透明感を震源としています。  
本来は日本の経済状況を元に株式  
は買われるものですが、海外の投  
資家が多いこともあり、日本の株  
価も下落しています」  
お客様「なんとかならないものか  
な」  
担当者「NISAは最長5年間の  
非課税期間がありますので、すぐ  
に売却せずじっくり構えることも  
必要だと思います。株は、どうし  
ても上がることも下がることもあ  
ります。積立投資は安いときに多  
く買えるメリットがあります。む  
しろこのメリットを活かして、追  
加購入により平均単価をならして  
みてはいかがですか」

